



集材したまま運びます



ゆっくり！ゆっくり！！と

『伐った木を山から出すには』

通年コース第九・十回開催報告「伐出」

間伐した木を山から出す。寄せて、集めて、運び出す。日本の山は、急峻で地形が複雑。なので、なかなか機械が林地まで辿り着けないこともあります。でも、できる

ことなら伐った木を山から出して使ってあげたい。そこで森林塾では、高性能林業機械ほどではないにしろ、比較的小型で小回りのきく林内作業車やウイン

チによる集材を体験して頂きました。ホイールタイプのロギングトラクタは、ウインチを二基装備して、全幹でも短幹でも、材を引っ張り寄せたまま運び出す。クローラタイプのキヤタトラは、ウインチ一基と積載デッキを装備して、集める・積む・運ぶができる。

三種の機械を、交代で使ってみた一日目。機械に翻弄されながらも、それぞれの特徴を掴んで頂けたでしょうか。各班毎に集材機械を決めて、伐倒から集運材までの一連の作業を行った二日目。林地の状態や機械に

「ひっぱりだ」という、変わった名前のウインチは、赤い帽子に丸太を入れて、いつでもどこでも簡単集材。



帽子に、材を



材の重心に...

通年コース第九・十回

8月26・27日(金・土)

伐出

26日(金)

8時35分

島崎先生の山小屋に集合。日程説明のあと、早川講師による「集材」の形態に関する講義。「吊るす」、「曳く」、「載せる」いろいろ

応じた、「伐り・出し」の考え方や手順を理解して頂けたでしょうか。「伐った木を山から出すには」...使用する機械や集材の方向、運び出す経路を決め...できるなら集材に応じた伐倒...を。樹を伐って、枝を払い造材し、寄せて集めて搬出する、そんな「伐出」。

間伐と平行して、あちらからもちちらからも、丸太が集められ運び出された二日間、お疲れ様でした。

8時50分

班分けをして現場へ。イントラ大野さんにロギングトラクタを回送して頂く。

9時

各班毎に集材を準備して集材開始。まずは、大野班ひっぱりだこ、川島班ロギングトラクタ、後藤班キヤタトラにて集材を行う。

11時

休憩を挟んで、集材機械を交代。今度は、大野班キヤタトラ、川島班ひっぱりだこ、後藤班ロギングトラクタにて集材。

12時

現場にて昼食。栗栖さん、差し入れありがとございました。



伐倒も集材も受け口の方向

13時

集材再開。ロギングのバツク走行が難しい。キャタトラは切り株に注意。ひっぱりだこは、赤い帽子もすぐれもの。

14時5分

休憩を挟んで、集材機械を交代。今度は、大野班ロギングトラクタ、川島班キャタトラ、後藤班ひっぱりだこにて集材。それぞれの機械の特徴は掴んで頂けたでしょうか。

16時 現場作業を終了し、小屋へ戻る。

16時20分

講師講評。終了、解散。

27日(土)

8時35分

島崎先生の山小屋に集合。講師挨拶、日程説明。今日のみ参加の方々には、午前中は交代で大野班と後藤班にて、午後は川島班にて集材をして頂く旨を伝え、

8時40分

早速現場へ。着後体操。機材を準備。

9時

大野班ロギングトラクタ、

川島班キャタトラ、後藤班ひっぱりだこ、とそれぞれ集材機械を決めて、伐出開始。今日は一日伐ったり、集めたり。大野班は、集材方向を決めて、それに応じた伐倒とロギングでの全幹集材。川島班は、林地に散材した丸太をキャタトラで集材・運材。後藤班は、アカマツを伐倒・造材して、ひっぱりだこに滑車を組み合わせて、材を寄せて集めて。

12時

今日も現場にて、昼食。

13時

伐出再開。各班ともに、機械の取扱にも慣れ、伐木造材から集材までの役割分担作業がスムーズに行われている。機械を使っていた、かかり木の処理を体験する班も。そうして、あちらこちらに散らばっていた丸太が、ロギングトラクタで、キャタトラで、ひっぱりだこで、寄せて集めて運ばれて、林内が綺麗に片付いてゆく。

16時15分

現場作業を終了し、小屋へ戻る。長坂さんの差し入

れてくれた葡萄を頂きながら、休憩を取った後、

16時30分

早川講師の総括。終了、解散。お疲れ様でした。

参加者/遠藤さん、春日さん、熊木さん、栗栖さん、小林さん、中神さん、松岡さん、太田さん、園田さん、長坂さん

講師/早川講師
スタッフ/大野、川島、後藤、坂野

次回以降の予定

第十一回

9月16日(金) 見学

丸太は、その後、どこへいくのか、どんな板材になって、どんなところに使われるのか・・・午前は、長野県森林組合連合会の伊那木材市場で木材流通の一端を見学。午後は、有賀建具店さんで様々な材や家具・建具を見学させて頂きます。



第十二回

9月17日(土) 枝打ち

8時30分、島崎先生の山小屋に集合です。



ウィンチ巻取り開始！

特別講師の保科先生による枝打ち講座です。ロープと手木で自作のぶり縄を作り、それを使って木登りし、枝を打つことをやってみます。午前は、ぶり縄作りと木登り練習、午後は、現場へ移動して枝打ちとなります。

枝打ちの目的や効果、その方法はもちろん、先生愛用の「両刃の鉋」や「あぶみ」といった道具類も必見です。

現場は、七月に間伐をした伊那市富原のヒノキ林です。8時30分、島崎先生の山小屋に集合です。

専門コース第三回開催

10月6日(木)

～8日(土)

早いもので、専門コース今年度最後の開催となります。安全・確実な伐倒、幹に沿った丁寧な枝払い、重心を見極めた造材…の完成を目指して。

現場は、小屋裏の旧日影区有林内のアカマツ傾斜林分となります。

8時30分、島崎先生の山小屋に集合です。

やま・もり 豆知識
「蜂にご用心」

会社で蜂に刺されてしまいました。出会い頭だったのですが、裏口を入ったところに蜂らしきものが、いきなりシャツの袖口から侵入して二の腕をチクリ。あわててシャツの上から叩き潰し、先ごろアウトドアショップで購入しておいたボイズンリムーバー(毒吸出し器)で同僚に吸引してもらい、その後水道水でよく洗う。おかげでほとんど腫れませんでした。が、痛みの引いた半日後から相当な痒さが丸一日ほど続きました。

建物の排気口に造られたコガタスズメバチと思われるソフトボール大の巣に住

第十三・十四回

10月21・22日(金・土)

測量・林道設計

一日目は、小屋の周辺で、広さ・大きさ・傾斜を測って、製図をしてみます。二日目は、林道の測量・設計をして、そこを歩道として開設してみます。

関数電卓、鉛筆、消しゴム、定規、分度器をご持参願います。

8時30分、島崎先生の山小屋に集合です。

む一族は、翌日成敗されましたが、今年は蜂の当たり年らしい。というところで傾向と対策を書いてみました。

ミツバチやクマバチなどのベジタリアンも、はじめたりに巣を揺らしたりすれば刺しますが、山仕事でよく遭遇するのは、やはりアシナガバチとスズメバチの仲間ではないでしょうか。

アシナガバチは日本には十一種いるそうですが、盛夏の下刈りでよく遭遇するのはホソアシナガバチ。草の大きな葉の裏などに黄色っぽい巣を作っています。他のアシナガバチに比べ色が



薄く、つくりが華奢ですが、豈図らんやけっこう気性が荒いみたい。ピーパーで巣の付いた草を刈ったりしたものでなら大挙してやってくる。刺されると相当痛い。今年は山でわりとよく見かけます。毒の量は多くなさそうですが、アウトドアショップのおばばが「アシナガなんてと馬鹿にしてると大変な事になるよ」といっていました。

スズメバチの仲間は日本に十六種だそうで、一般的に気が荒く、平気で人をさします。中でも親分格はオオスズメバチ。大きいもので体長五センチ近くにもなり、日本最大の蜂です。牛のような顔がたちで見るからに凶暴。こいつらの逆鱗に触れた日にはもう大変。以前、集材用の架線を架設する際に、灌木をワイアで叩いたら、根元にいた穴から十匹ほどのオオスズメバチが飛び出してきま

した。われわれ数人は四散し地面に這いつくばって、石になつて許しを請いました。人が刺されてしまいました。永い永い時間が過ぎて(実際のところは十五分くらいか?)彼ら

が矛を収めた事を確認し、そろりと退散しました。刺された人は即病院に向かい、幸い大事に至らずに済んだのですが、怖い経験でした。

伊那谷で「すがれ」とよばれるのはクロスズメバチ。オオスズメバチと同じく地中に巣を作るので地蜂(じばち)とも呼ばれています。夏から秋は「すがれ追い」の季節で、かえるやあかうお(ウグイ)の肉を用意し、これを

巣に持ち帰る「すがれ」を追いかけます。いい大人が何人かで、山の中や土手を恐ろしい勢いで走っていくのですから、知らない人がこれを見たらどんな一大事が起こったかと戦々恐々としてしまう事請け合いです。なに、

十ミリほどの蜂を追いかけているだけでのご心配なく。幼虫や若い親の炊き込みご飯は美味です。つくだ煮は酒のつまみに。伊那のお土産として、バスターミナルやアピタ(スーパー)などに缶詰が置いてありますので一度お試しください。このあたりの人は、ほかにキイロスズメバチやオオスズメバチなんかも捕まえて食べてしまうのですから、蜂と人間どっちがより恐ろしいかわかりませんね。川島さんはオオスズメバチを生け捕りにして焼酎漬けを作っていますし、「すがれ」の天敵は人間以外

にも、寄生蜂やあぶ、ハチクマなどの鳥が知られています。彼らも彼らなりに大変なのです。

七月の間伐のときにイントラの藤原さんが刺されたのがこのクロスズメバチ。田んぼの土手や、樹木の根の下などに巣を作る。なにせ誰かが刺されるまではそこに巣があることに気づかない場合がほとんどで、刺された人はスケープゴートというものでしょう。第二、第三の被害者が出ないよう注意が肝要です。

日本で平均して年間三十人ほどの人がスズメバチに刺されて亡くなっているそうです。ハブ、マムシやヒグマ、クラゲを凌駕し、動物の危害による死亡ではダントツだそうです。これは毒そのものによるのではなく、蜂毒に起因する急性アレルギー反応(アナフィラキシーショック)によるものです。さて盛夏から秋の終わりまで、スズメバチに対する注意として、

長袖、長ズボンで、明るい色の服装をする。黒い色に反応するそうです。保科先生は「あかばち(キイロスズメバチ)に目玉刺された時は痛かったなア」とよくおっしゃっていました。が、想像するだに恐ろ

しい。帽子がなければタオルなどをかぶる事。香水やヘアスプレーなどの化粧品は匂いにも反応するそうです。

やつぱり自然の美男美女が一番? お弁当を広げていると肉や魚に寄つてきたり、デザートのぶどうや缶ジュースをついたりします。手で払ったりしない事。辛抱強くそつと退散願いまししょう。巣に近づきすぎて威嚇された場合も同じく、体を伏せて、できるだけゆっくり遠ざかりましょう。

刺されてしまった場合は、針がついていたら、ピンセットなどでそつと引き抜き、ボイズンリムーバーがあればこれで三十秒ほど吸引しきれいな水で刺された部分を洗い流し、冷やして、抗ヒスタミン軟膏を塗る。

普段アレルギー反応の起きやすい人や、また実際にじんま疹が起きたり、体がだるくなったり、めまいや吐き気などの症状(アナフィラキシーショック)がでたら速や

かに病院へ行きましょう。時々にも山仕事にいかれる方はボイズンリムーバーは用意したほうが良いでしょう。また職業とされている方には、医師の処方により自己注射用の補助治療剤の携行が今は許されています。



はじめまして。今回通信を書くことになりました。松岡みどりを申します。二〇〇五年四月からKOAの森林塾で働いています。仕事の関係上、森林塾にはまだ出席は二回のみですが、できるだけ参加していきたいと思っておりますので、みなさまよろしくお願いいたします。



え、ここまで歩かせてきたのでしょーし、これから私の背中を押していくのだと思います。

私はイギリスの樹木園でチェーンソーをはじめて習いました。フォレストのボールさんとマシューさんの後について、私たち学生三人は一週間、原野でシラカバを倒し続けました。ここでは安全対策の身支度をしないとチェーンソーが扱えない法律がありました。作業をするときに考えられる危険がまず最初に説明され、自分の安全は自分を守るといふ姿勢が徹底されていました。あるとき私が、高速で回転する刃物を毎日扱っていて怖くないかと聞いたことがありました。そのときマシューさんは、「国道を横断するとき、もし君が周りを見ないで横断したらそれは危険だ。しかし君は横断する前に、右を見て左を見て、心配だったらまた右を見て、車がこないか確認すれば安全に横断することが出来る。多分こついうことだと思つよ。」と答えました。何かとても大事なことを教えてもらったような気がして、今でもその場面を覚えています。

思いのほか多く、この森林塾の影響力の大きさとみなさまの情熱に驚かされます。それは多分、塾生の皆様と伊那谷の自然との出会い、そして森林塾の講師の先生方、事務局の方々、ほかの塾生の方々のよい出会いがあったからなのだと私は思います。

私自身も、いろいろなひととの出会いを通して、私はここにいてることを感じます。神奈川県丹沢山麓にある小さな全寮制の園芸学校で、学生としてまた職員として植物の世界に足を踏み入れてから、植物園や樹木園での研修を経て、信州大学の森林科学科に編入し、そして縁があつてKOAに就職しました。どの時節にも、ひととの出会い、場所との出会い、そして植物との出会いがありました。このような、心がうれしくなる体験の積みかさねが、私に勇気と元気を与

ていて希望があると私は思います。これから私はここでたくさんの方との出会いをすることを楽しみにしています。この場をかりて自己紹介をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

でもそれだけでなく、緑はいつもそこに有り、私達の心を和ませてくれる存在でもあります。また励ましてくれる存在でもあります。

ずっと以前、赤い実をいっぱいつけた大きなつり花の木が、「大丈夫」と私を勇気づけてくれた思い出の秋。今年、あの木に逢いに行つてみようかと思っています。

「鷹」



コラム

八月も後半になり、ずいぶん涼しくなりました。早くお盆が過ぎないかと思つていたら私には、うれしい季節の到来です。

道端の野ぶどうが淡く色づき始めています。どうしてこんなに色とりどりの美しい実をつけるのかと、ふしぎな思いでながめている私です。秋茜もつれしそに舞い始め、空もいくぶん高くなつた様な気がします。

実りの秋。収穫の秋。憂いとおそろひの秋。未来の為に種を育み、命を産みおとすとき。林内で人知れず、ひっそり、くり返される営み。人間よりもはるかに長い歴史を持つ植物達のしたたかな生命力。

でもそれだけでなく、緑はいつもそこに有り、私達の心を和ませてくれる存在でもあります。また励ましてくれる存在でもあります。

おわりに

日本列島を直撃した台風が過ぎ去った後、蒸し暑い夏が戻ってきたような天候となつた伊那谷。

それでもやはり九月。大陸の高気圧が秋雨前線を連れてくる季節。朝露に、蜻蛉に、空の色に、ほのかな秋の気配が漂う、今日この頃。

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。

TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994



E-mail:
sh-sakano@koanet.co.jp
ki-hayakawa@koanet.co.jp
携帯:090-4463-0062 (開催日)
URL <http://www.koanet.co.jp>